

建設候補地評価委員会からの答申を受けました

平成30年1月に、諮問機関である『熊本中央新施設建設候補地評価委員会（以下、「評価委員会」という。）』の委員長から、建設候補地の評価結果について答申を受けました。

評価委員会は民意および専門的見地から建設候補地の評価を行うため、6町村からの推薦者6名、環境および地質等の分野で見識を有する者4名、行政関係者6名で構成され、約8か月の期間、延べ8回の委員会が開催されました。

評価にあたっては、将来的な施設の安定稼働が特に重要であるとされ、事前に活断層との位置関係について評価し、続く1次・2次評価では、法規制の確認、立地条件（用地条件、環境保全関連、生活環境条件）や経済性の側面から点数化を行い、また現地視察により現況の把握に努め、十分な議論を重ねたうえで、建設用地としての適性について評価が行われました。

その結果として、より高く評価された候補地は『益城クリーンセンター周辺候補地』および『古閑原、古閑迫地区候補地』（順不同）とされました。

なお、その他の候補地についても、建設用地として一定の適性を備えていると評価されました。

最終建設候補地については、評価委員会からの答申を最大限に尊重し、総合的に検討を行ったうえで決定いたします。

答申式の様子



（平成30年1月16日、評価委員会の長谷義隆委員長（左）から答申を受ける奥名協議会長（甲佐町長）（右）、甲佐町長室）